

令和7年度 授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	横芝光町立横芝中学校
-----	----------	-----	------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 令和6年度、全国学力学習状況調査（生徒質問）の結果から、①「分かった点や分からなかった点を次の学習につなげることができるか。(34)」②「問題が分からないときは諦めず様々な方法を考えるか。(55)」③ICT機器を活用して情報整理ができるか。(29-3)」④「お互いに協力して課題の解決に取り組んでいるか。(28-7)」の質問について県・全国平均を大きく下回っている。
- ①②より、思考するための基盤となる知識・技能の習得ができていないため、諦めてしまう生徒が多いのではないかと考えられる。また、③④より、協働的に学習する場の設定や、ICTの効果的な活用が課題である。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- 少人数指導の効果的な活用により、基礎的な知識・技能が習得できるであろう。
- ICT機器を活用した協働的な学びの場を設けることで、思考力・判断力・表現力を深めることができるであろう。
- 教科横断的に、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を目指すことで、自分の考えを表現する力が身に付くであろう。

3. 具体的な実践

- 少人数指導を効果的に活用するために、「習熟度別でのクラス分け」「単元の中で基礎となる部分で実施する」などの工夫をした。全授業教員2名が配置できるため、一斉授業でも個に応じた指導を行った。
- 思考力・判断力・表現力を深めるために、タブレット端末で「デジタルノートアプリ」「ファイル共有アプリ」を用いて協働的な学習を行った。
- 教科横断的に、「表現力向上」「個別最適な学び」「協働的な学び」を一体的に充実させるために、年度初めに計画を立てて、実践を行った。その後の生徒の変容を分析する。

4. 成果

- 「習熟度別でのクラス分け」「単元の中で基礎となる部分で実施する」ことで、「個別最適な学び」の充実につながり、特に数学が不得意な生徒の基礎的な知識・技能の定着が見られた。
- 学校独自で行った生徒へのアンケート結果から、「ICTを活用することで他者との意見の共有や自分の考えを伝えやすくなった」と答えた生徒が4月当初から10ポイント程度増加した。

◆担当指導主事から

- ICTの効果的な活用により、少人数指導のよさが発揮される授業が展開された。「デジタルノートアプリ」「ファイル共有アプリ」を有効活用し、お互いの考えを「共有」できるようにした。別教室で学習している他の生徒の考えを参考にすることで、より多くの考えに触れることができた。「協働的な学び」の充実により、自分の考えを深める、新たな考えに気付くといった「個別最適な学び」の充実が図られた。また、いつでも誰かの考えに触れることができるという安心感からか、自分から学びに向かう姿が見られた。
- 少人数指導のよさを生かし、教師が個々の生徒の状況を正確に把握することで、的確な声掛けや支援をすることができた。